

平成28年度離島漁業再生支援交付金による取組概要

1. 集落の状況及び集落協定の概要

都道県名：沖縄県

市町村名：宮古島市

島名：宮古島

協定締結集落名：宮古島漁業集落

交付金額：4,352千円（基本交付金のみ）

協定参加世帯数：72世帯72人（うち漁業世帯50世帯50人）

集落漁業者平均所得：1,367千円

2. 協定締結の経緯

宮古島市は八重干瀬などに代表される広大な珊瑚礁群に囲まれるとともに、島の南北に黒潮の潮流が流れるなど良好な海域環境を有しており、それらを活用した一本釣漁業、パヤオ漁業、網漁業、潜水器漁業、モズク養殖業等が営まれている。しかしながら、好漁場を有している一方、離島という地理的特性に起因する高コスト構造等の条件不利性などから漁業者の減少が進んでおり、この状況を放置すれば本市の漁業集落は一層衰退し、集落及び水産業が持つ多面的機能が低下することも懸念されている。

そのようなことから、漁業集落が行う漁場の生産力の向上や漁業の再生に関する実践的な取組などの活動を通じて漁業の再生を図りつつ、水産業が発揮する多面的機能の維持・増進に向け、宮古島集落において集落協定を締結し、離島漁業再生支援交付金による漁業再生活動に取り組むこととした。

3. 取組の内容

①漁場の生産力の向上に関する取組状況

◇種苗放流（ハマフエフキの放流）

水産資源の維持・回復に向けハマフエフキ（タマン）の放流を実施。

実施日	実施海域	放流数
H28. 9. 21	保良地区	2,000尾

実施状況写真



種苗積込状況



種苗放流状況

②漁業の再生に関する実践的な取組状況

◇新規養殖業の着業

操業日数の増加による漁業者所得の向上に向けた試験的な取組として、シャコ貝の陸上養殖着業の取組を実施。

実施状況写真



施設整備作業の様子



施設整備後の様子

◇高付加価値化

- ・宮古島産のアーサの品質向上、高付加価値化を図るため、他地域（熊本県天草地方）におけるアーサの養殖方法や出荷までの生産工程に関する視察、意見交換を実施。
- ・宮古島産糸モズクの品質向上、高付加価値化並びに地元における普及につなげることを目的として、宮古島産糸モズクを取り扱っている事業者等への意見交換等を実施。

実施状況写真



アーサに関する意見交換の様子（熊本県）



糸モズクに関する意見交換の様子（福岡県）

◇流通体制の改善

流通体制を改善することで漁業者所得の向上へつなげるため、漁獲した伊勢エビ等の島外出荷調整が可能となる活魚水槽を導入。

実施状況写真



設置作業の様子



設置完了後の様子

◇その他（モズク培養技術向上の取組）

宮古島産養殖モズクの生産安定化を目指し、夾雑物の少ない母藻の確保、種苗の純粋培養技術の向上、定着につなげるための取組として、大型水槽等を導入し、培養した種苗の保存環境の改善を図った。

実施状況写真



培養の様子



大型水槽設置状況

4. 取組の成果

漁場の生産力の向上に関する取組においては、ハマフエフキの放流により水産資源の維持・回復が見込まれ、放流漁場での漁業の継続性につなげることができた。

漁業の再生に関する実践的な取組のうち、新規養殖業の着業の取組については、今後の漁業者所得の向上が期待できる取組みとなっており、また、高付加価値化の取組においては、アーサやモズクといった宮古島産養殖藻類の品質向上によるブランド化につなげていくための、漁業者意識の変化が得られる取組となった。

流通体制の改善については、活魚水槽の活用に関して試行錯誤している段階であるため、際だった成果が現れているとは言えない面があるが、使用方法や出荷調整の安定化が図られれば、多いに漁業者所得の向上が期待できる見込みである。

モズク培養技術向上の取組については、種苗の保管状態が改善されることで、更なる培養技術の向上、安定生産につながる見込みであり、技術定着に向けて、今後とも引き続き取り組んで行く予定である。